

支払意思額

「ロンドン五輪の熱い夏」も終わり、毎度楽しみな「食欲の秋」を満喫しながら、来る「寒地研究本番の冬」へ想いを巡らす、筆者にとっての今日この頃であります。ただ、今冬は、大震災後から引き続き原発停止の影響のため、電力需給の状況によっては、例年とは異なる“我慢の冬”になることも予想されます。

さて、昨冬は、道内で局所的な大雪が降り、地域の暮らしに様々な影響を与えました。積雪寒冷地域に暮らす私達市民にとって、「除雪」はニーズの高い、行政の大切な仕事の一つと言えます。その除雪に関する住民意識について、興味深い調査*を紹介します。それは、三種類の除雪水準を表現した街並みのモニター写真（A：雪がほとんど除排雪され良好な環境、B：雪はあるが必要車線空間を確保、C：残雪多くすれ違い困難）を、札幌市民（約200名）に見せて「どのレベルの除雪を希望するか?」、そのために「いくらまでお金を支払ってもよいか?」（支払意思額）を調査分析したものです。

調査の結果によれば、住民による「除雪の要求レベルとその支払意思額」には、負の相関関係が認められます。大雑把に言えば「お金はあまり払いたくない住民ほど、要求レベルが高い」、「ある程度のサービスで十分と考える住民ほど、お金を多く支払う用意がある」というものでした。

私達の暮らしや経済の活動を、いつでもどこでも下支えし一定の質に保つために、様々な社会サービスが相当のコストあるいはリスクの下で提供されています。その際、社会サービスの管理者と社会（利用者、市民）との間では「サービスとコストあるいはリスクとの適正なバランスをどう選択するか」、「どう理解し合い、受け入れるか」等、より良い解を見つけるための試行、努力が日常的に続けられています。私達の職場も、研究のしごとを通じて、その解を得るためのプロセスに少しでも役立てたら幸いに思います。

*参考）北海道大学 岸邦宏ら「ロジック型価格感度測定法を用いた除雪事業費に対する都市別負担意識分析」、土木学会第56回年次学術講演会

（寒地交通チーム 上席研究員 渡邊 政義）

* * * *

表紙左上記号 ISSN 1881-0497の説明

国際的なコード番号である ISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館 ISSN 日本センターから付与されたものです。